

「教職員講座」 ～「地域に開かれた教育課程」づくりには、まず「教職員の体験」～

県立奄美少年自然の家

野外での体験活動を通して

趣旨

教職員自らが奄美の自然や文化・歴史にふれ、実際に野外・創作活動等を体験することにより、体験活動の教育的意義をさらに深め、集団宿泊学習をはじめとするこれからの教育に生かす機会とする。

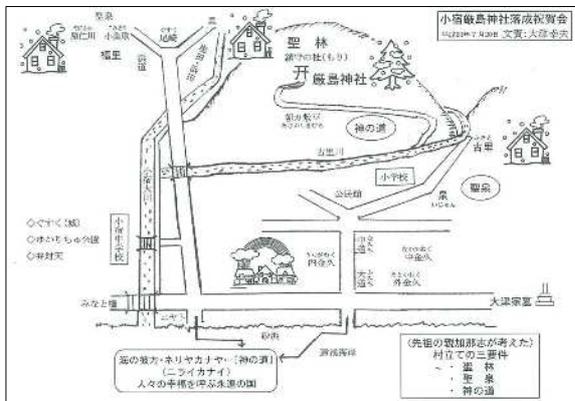
◇ 日時

令和5年8月25日（金）9：30～16：00

◇ 場所

- ・小宿小学校校区
- ・朝仁海岸【奄美少年自然の家（朝仁艇庫）】

研修1「小宿小学校区を活用した集落ウォークラリー」



活動テーマ「集落（シマ）に隠された謎を解き明かそう！」をもとに、10のチェックポイントを巡りながら集落内を散策しました。

参加者は、この活動を通して、集落の歴史や伝統文化には、地域の自然や地形等と人々の営みとのつながりを実感していました。



【小宿を歩きながら、ミッションクリアを目指す】

研修2「野外炊さん」

朝仁海岸に会場を移し、集団宿泊学習で行う野外炊さん（カレー・ご飯）の活動をしました。施設と違いブロック等で設置した竈であったことから、風向きや薪などを考えながら着火したり、火力調節をしたりして調理していました。



【野外炊さん研修で一緒に昼食】

研修3「海洋・海浜活動研修」

当所の特色ある研修活動プログラム「いかだ活動」「カッター」の体験活動をしました。

いかだ活動では、いかだの木枠にフロートを取り付ける活動から始まり、カッターでは大波に苦戦しながら乗り込むことができました。

海に漕ぎ出すと朝仁海岸の美しいリーフと砂浜など、参加者は自然の素晴らしさや力を合わせることの大切さを体感していました。



【朝仁海岸で海洋・海浜活動体験】

参加者の感想

- 教師として校区を知ること、地域を大事にしていくことの大切さを再確認することができました。
- 他校種の先生方とのかかわりもあり、体験活動の重要さと在り方について学びました。